

# “至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2019 第 2 号（上級生・1 年生共通版）

## 1. 県総体、体育祭、競技大会お疲れ様でした！

5 月 31 日から 6 月 2 日まで県総体が開催されました。結果はテニス、バスケット、ハンドボール、空手とすでに 4 つの部が全国大会出場を決め、陸上（陸上は東海大会を経てインターハイ出場が決まる）も優勝 5 種目、総合 3 位、トラック競技で総合 1 位、と例年のごとく（例年以上に）素晴らしい結果を残してくれました。まずは上の大会に進んだ人たちの今後の精進と健闘を期待しています。これ以外のクラブも本当に健闘してくれて、県内ベスト 4、ベスト 8 など今まで私が勤務してきた学校なら「すごいね」「よく頑張ったね」と言われるような成績を残してくれているのですが、全体があまりにすごすぎて書ききれず申し訳ないです。

また、その疲れをいやす暇もなく 6 月 6 日には体育祭。企画をしてくれた生徒会の皆さん、ありがとうございました。今年は学校の目標として生徒の「主体性」を高めたい、ということで新種目が入ったり入場行進がなくなったりと、例年と違うことで戸惑うこともあったと思います。しかし「主体性」を高めるには、たとえうまくいかない場面があったとしても教員の側にも「失敗を恐れない」「生徒の行動を待つ」ことが必要になってきます。実際にやってみた反省・振り返りを次につなげることが皆さん自身の人間としての成長につながります。その意味でも生徒会執行部の皆さん、ナイスチャレンジ！今後の企画・行事もできる限り生徒主体で進めてくれることを期待しています。

商業系の全国競技大会の県予選が立て続けに開催されるのもこの時期です。ここでも例年のごとく頑張りが目立ち、ワープロ・ITC・珠算・電卓が予選を勝ち抜き、全国大会への進出を決めています（簿記は 6 月 15 日に予選があり、全国への進出を期待します）。東海地区は商業系の競技会のレベルが大変高く、例年岐阜や愛知が全国 1、2 位を占めるだけに、本番までしっかり練習して、本校だけでなく三重県代表としても上位の好成績を期待しています。

## 2. 5 月の出張から学んだこと

皆さんはふだん校長とそんなに顔を合わせることもないので知らなかったと思いますが、皆さんが中間テストを受験している間、私は商業高校の全国理事としての仕事、全国の校長会に加えて高野連会長として東海大会の視察と出張に行っていました。高校野球の東海大会では三重代表の津田学園が優勝してくれて非常にうれしい思いをしましたが、やはり全国（東京）へ行くと県内にいて入ってくる情報とはレベルが違うことを実感する日々がありました。高校でも 4 月から新しい学習指導要領への移行期間に入っており、多くの学校で昨年と比べると、そのための活動が始まっているなどというのが一つの感想でした。もっとも、その対応に関しては本校も今年度から「基礎力診断テストの導入」「ポートフォリオの必携化」「調査書の改訂」に加えて、英数国では表現力・思考力・判断力向上のための

演習の導入など、無理せずに必要な変更を行っているので、それほど心配することはないと思います（たぶん、皆さんの感覚では変わったということも意識できないほどではないでしょうか）。むしろ、昨年と大きく変わったなと思ったのは文部科学省や校長会の幹部の方々からの話の中で、昨年は説明付でのおずおずと語られていた「Society5.0」「Ed.Tech」「STEAM」「SDG's」などの言葉が、当たり前前に「皆さん知っているでしょ」的に語られるようになっていたこと（皆さんがこのあたりを知らなくても全く問題はないですが興味があれば調べてみて）、現状の教育に対しての批判が、強い言葉に代わってきていること（～しなければいけない、～のままではいけない、などの）。これらは2030年（今から10年後）の社会を想定して様々な変革をしているにもかかわらず、現場の変化が遅れていることに対するいらだちかもしれません。私は彼らが語るような社会が到来する予測に異論はありませんが、そのためにあわてて様々な技術的なテコ入れを急ぐよりも、そんな社会になった時に必要な本質的な資質・能力をつけていくことを優先すべきだと考えます。私の考えでは、それがいつも言うキャリア教育によってつけていきたい「主体性」「自立」「共生」の力なのです。その中でも「主体性」はもっともベースになる力です。自分で考え、経験し、失敗し、内省し、次の行動につなげることで大学や社会で「生きる力」を高めていく。高校時代をぜひそのためのトレーニングの期間にしてください。授業や教育の内容を変えるのはその目標を達成していくための手法であるべきだと考えます。今年度、新たに学校の目標として「主体性」を加えたのは、「社会で生きる力」を高めるキャリア教育をより具体的な形のものに変えていきたいという想いなのです。

### 3. 交通ルール、マナーを守ろう！

当たり前のことですが本当にこの件については多くの苦情をいただきます。上級生には前年度、具体的な場所やケースもあげて注意喚起をしましたね。バスの中で優先座席を占拠する、大声で騒ぐ、歩道をいっぱいに広がって歩く、自転車を運転して一時停止を怠りあわや交通事故に（実際に事故につながっているケースも）、先日は車椅子で通行中の方の横を自転車ですり抜けて恐怖を感じさせるという電話も頂戴しました。もちろん、ルールやマナーを守れていないのは一部の人たちだと思います。また、皆さんは注意されればすぐに直すことはできるし、もちろん悪気でやっている人はいないでしょう。たぶん「気が付かない」のだと思います。上級生の皆さんには昨年もこの通信を通じてアドバイスしましたが、ふだんの行動も「相手の立場になって考える」ことは必要です。ただ、ひょっとすると相手のことを思う、イメージする力が現代の若者は弱いかもしれません。我々の時代と違って、幼い時から何でも親や周りがやってくれるから。もしそうなら余計に「相手の立場になって考える」経験は必要です。交通ルール、マナーをまもることはもちろんのこと、「気づき」「気配り」は「共生」のための根本になるからです。

(6月13日)